

県議会報告

2005・5
小川 一成後援会

〒 302-0125 守谷市高野646
TEL 0297-48-1064

熱い思い込めて必死戦

第1回 知事らの考えをただす 定例会

二月二十一日から三月十八日までの二十六日間の会期で開かれた平成十七年第一回定例会で、小川一成議員は三月二日、県政全般について論じる一般質問に立ち、大別して①知事の歴史観・国家観②真の日中交流③新茨城百景④次代を担う子どもたちのための教

育⑤阪神・淡路大震災後十の飛躍的発展の起爆剤となるつくばエクスプレス(TX)の戦略的PRの六項目を取り上げ、橋本昌知事ら執行部の考えや姿勢をただしました。

写真上は、計十二人が登壇した予算議会の論戦を締めくくった小川議員。今回も、論客ぶりを大いに発揮しました。写真左は、本会議場の光景



今期2回目の一般質問

三期目の小川議員にとって、この日の一般質問は一年第四回定例会に続き、今期二回目です。前回に続いて「トリ」を務めました。今回は代表質問、一般質問に計十二人が登壇した予算議会の論戦を締めくく

三期目の小川議員にとって、この日の一般質問は一年第四回定例会に続き、今期二回目です。前回に続いて「トリ」を務めました。今回は代表質問、一般質問に計十二人が登壇した予算議会の論戦を締めくく

懸案だった国道294号乙子交差点の立体交差化事業の着工(昨年十一月)が特筆に値するでしょう。完成は平成二十年秋ごろの予定ですが、今後は早期完成に向けた努力が一層求められます。また、市民の要望が高かった南守谷地区への交番設置にも取り組みました。この日は、地元から三百

立体化事業が着工

懸案の乙子改良「模擬土木委」にも尽力

また、小川議員は今定例会最終日、県屋外広告物条例の改正案を議員提案しましたが、政策条例を議会サイドから提案したのは本県初とあって、政策通としての評価を大いに高めたのは言うまでもありません。

人近い支持者らが傍聴に詰め掛け、熱い思いが凝縮された論戦に、熱心に耳を傾けていました。

今回の『県議会報告』では、知事の歴史観・国家観、真の日中交流、TXの戦略的PRなどをめぐる主な質疑応答を採録しました。なお、小川議員は二月の自民党県連大会で、政調会副会長に起用されました。

特に、土木委員長としては、円滑な運営に手腕を発揮したのはもちろん、県内調査の一環として、中高生に議会活動を体験してもらおうとともに、若者の意見を県政に反映させようと昨年十二月、本県議会初の「模擬土木委員会」の開催に努めたのは、記憶に新しいところです。

④の教育問題では、小学四年から中学三年までの全児童・生徒を対象に実施している本県独自の学力診断テストの結果の把握と活用について質問。川俣勝慶教育長から、今後は市町村別や学校別のテスト結果を把握し、学力向上施策に生かすほか、十九年度からは小学三年まで拡大する旨の答弁を引き出しました。

④の教育問題では、小学四年から中学三年までの全児童・生徒を対象に実施している本県独自の学力診断テストの結果の把握と活用について質問。川俣勝慶教育長から、今後は市町村別や学校別のテスト結果を把握し、学力向上施策に生かすほか、十九年度からは小学三年まで拡大する旨の答弁を引き出しました。

り口でした。前回は新渡戸稲造著の『武士道』をめぐり哲学論争を繰り広げ、小川アリを強烈に印象づけましたが、今回は武士道を踏まえ、百年前の日露戦争に触れながら、「改めて先人たちの気概と愛国心、知恵と志に学び、国家としての自信と誇りを取り戻すべきです。その上で、活力ある県づくりを目指していかなければならない」などと指摘しました。

日中交流を取り上げた②では、守谷市国際交流協会の会長としてラオスなどの東南アジア諸国との友好親善に尽力していることもあり、「真の友好関係を構築するためには、日中間の多くの問題についても、相手に対してはつきり主張すべきところは主張すべき」と持論を展開、知事の考えをただしました。

問われている「品格」

重大局面の 県の方向性示すべき 県総合計画 知事の歴史観・国家観

知事の歴史観・国家観

小川議員 まず、初めに、知事の歴史観・国家観についてです。

私は、平成十五年第四回定例会で、武士道に触れながら、知事に日本人の精神文化について尋ねました。

その中で、「名譽のためには命も惜しまず」という毅然とした生き方が今、日本から消えつつあるように感じられる。公の精神が減退する時、国家が減退と言われ、今日日本の現状を見るにつけ、戦後半世紀以上の長きにわたって日本人の精神をおろそかにしてきた代償は非常に大きかったと言わざるを得ない。清貧に甘んじながらも、国家のあるべき姿を語り、人とはいかに生きるべきかを率先垂範して見せてくれた政治家や経営者の姿は、既に歴史のかなたにあり、今日では官僚までもが私腹を肥やすことだけにきゅうきゅうとしてきたという現実が、今の日本の姿そのものではないか」と述べました。

かつての日本、ことに明治の日本には品格がありました。幕末から明治にかけて、主に下級武士出身の者たちが欧米に渡航しましたが、彼らの多くは現地の人々

の賞賛を博したと言われています。

彼らは、流暢な英語や、洗練された西洋マナー、世界史や世界地理の知識さえもそれほど持ち合わせてはいませんでした。日本の古典や中国の漢籍の教養、そして武士道精神に裏打ちされた行動基準や品格を備えており、それがかの地の人々に感銘を与えたのです。それゆえに、多くの日本人は欧米から尊敬されていたのです。当時の日本は、欧米列強に比べればまだまだ小国ではありましたが、それなりの存在感がありました。

イギリスの作家、サミュエル・スマイルズは、「国としての品格は、自分たちは偉大なる民族に属するという感情から、その支持と力を得るものである。先祖の偉大さを受け継ぎ、先祖の遂げた栄光を存続させるべきだ」という風土がその国にでき上がった時に国家としての品格が高まる。国家の品格は先祖への尊敬心に始まる」と述べています。

この指摘を今の日本に当てはめると、まことに心もとなくなりそうです。いかに経済的に豊かであっても、国際社会で尊敬されるわけがありません。全盛期の大き

が、国際的なリーダーシップを発揮することはとても期待できません。今からちょうど百年前、日本は日露戦争の最中でした。欧米諸国の一つ、大ロシアとの全面衝突は、日本が滅びるか否かの戦いであった。日本海海戦で敗れたら、日本という国そのものがなくなってしまうかもしれないという瀬戸際に立たされていたのです。

英帝国、現在のアメリカ合衆国が世界のリーダーたり得るのは、圧倒的なパワーと同時に、何らかの品格を感じさせるからです。単に軍事力、経済力だけでは国際社会は動きません。ところが、今の日本はどうでしょうか。残念ながら、その品格を保持できない日本

が、国際的なリーダーシップを発揮することはとても期待できません。今からちょうど百年前、日本は日露戦争の最中でした。欧米諸国の一つ、大ロシアとの全面衝突は、日本が滅びるか否かの戦いであった。日本海海戦で敗れたら、日本という国そのものがなくなってしまうかもしれないという瀬戸際に立たされていたのです。

民族の誇りと尊厳へとつながっていったわけですね。この勝利の根底には、極めて厳しい状況の中で、未曾有の危機を克服した明治の、先人たちの気概と愛国心があったことを忘れてはならないのです。旅順と対馬の戦いに敗れたロシア側の将校に礼を尽くし、情を示したことで、最後の武士道の戦争とも評された日露戦争百年に当たり、私たちは改めて先人たちの気概と愛国心、知恵と志に学び、国家としての自信と誇りを取り戻すべきです。その上で、混迷を続け

る現状を打開して、活力ある県づくりを目指していかねばならないと思うのです。現在、県土のグラウンドデザインを決める総合計画が改定期にあります。知事は昨年十一月、総合計画審議会に諮問しましたが、そこには知事が目指そうとしている県土づくりの方向性や、三百萬県民をどこに導こうとしているかが明確に示されています。経済社会システムの抜本的な改革が進め

られる中、地球規模の環境問題や、国内外での地域間競争の激化など様々な課題が山積しており、まさに重大な局面を迎えています。県のリーダーである知事が、県の方向性を、ひいては日本をリードする方向性を示すべきではないでしょうか。地方から国を変えていくためには、知事が国のあり方を明確に認識し、その具現化に向けて県政運営に当たっていかねばならないと私は考えますが、知事の歴史観・国家観を披瀝願うものです。

ご指摘のように、戦後六十年を迎える今日、国家のあり方や教育のあり方などについて国民が真剣に考えていかなければならない時期にきています。わが国を取り巻く国際情勢や社会状況が急激に変化している中で、憲法に関する議論も活発に行われるようになってきていますが、国家のあり方などについて十分に議論し、国際社会から信頼されるとともに、国民が誇りを持てるような国家を目指していくことが大切と認識しています。

信頼と誇りが大切

3つの基本方向示す

橋本知事 国家は、国民の自由と人権を保障し、生命や財産を守り、平和と繁栄を築くことを目的に、

国民の総意によって成り立っている、国民自身によってつくられたものであると認識しています。

わが国では、幕末から明治にかけて近代国家の基礎づくりが進められ、多くの先人が、国を愛し、よりよ

い国にするにはどうしたらよいか、さらには、近代化が進んだ欧米列強に対抗できる力を持った国にするにはどうしたらよいかといったことを、まさに命がけで考え行動していました。

その中でも、水戸藩は早い時期から、藩や国を超えて、世界的な視野を持って国家のありようを考えていたわけであり、素晴らしい郷土の先人たちがいたことを大変誇りに思います。

また、自分の自由は主張するが、他人の自由は考えないような傾向も見られ、義務という概念が次第に消えつつある、あるいはまた、倫理観や道徳観も低下してきていることを大変憂慮しているところではあります。

このように先人たちの努力によって、幕末後の混乱や日露戦争などを乗り越え、さらに第二次大戦後の復興に努めてきた結果、世界有数の経済大国へと発展してきました。

しかし、戦後には、国家よりも個人を重視する教育や文化、伝統、倫理観といったものを、今日の人々の心にもすっかりと育み、次の世代へ引き継いでいくことが極めて重要だと考えます。

このような茨城づくりを進めることによって、ますます激しくなる地域間競争に打ち勝ち、本県を大きく発展させていくことができると考えています。



傍聴席を埋め尽くした小川議員の支持者ら

はっきり主張すべき

最近の問題、中国側に原因

真の友好関係構築へ

真の日中交流

を担う総勢四百五十二名の青年が中国を訪れました。船内での研修や現地での視察、青年との交流を通して、広い視野に立って地域における活動を進めることが出来る人材の育成を目的とした茨城県青年の船です。

私もその一員として参加しましたが、知事も上海市長と親しく懇談するなど、経済交流や人的交流の促進に大きく寄与したのではないかと思います。

小川議員 次に、真の日中交流についてです。昨年十一月、橋本知事を総団長として、あすの茨城



小川議員も講師として参加した昨年十一月の県青年の船事業の船上で

の梁継国茨城大学教授は次のように述べています。

「今の日本は、形は独立国家だが、実際には独立国家にはなっていない。もし独立国家なら、どの神社に参拝するか、どのような教科書を作るかなどは自国で決められることであり、他の国からとやかく言われたら、内政干渉だと抗議すべきである。同じように、中国も大人の度量が欠けている。靖国神社に関して、正義、不正義の問題はあるが、天安門広場には人民英雄記念碑があり、日本に靖国神社があってもおかしくはない。もし靖国神社への参拝や教科書問題が経済利益との関連でされたことであれば、卑怯な行為としか思われない。要するに、日中両国のリーダーシップをとっ

ている政治家が大きな度量を持って、過去のことはこざわらず、前向きな態度をとって、両国の国民のため、その子孫のために考えて対処すべきである」

中国は、真の日中友好を心掛けていますが、実は、その友好を妨げているのは中国自身であるのを知るべきです。しかし、私は善良な中国人を数多く知っています。

日本と中国は一衣帯水の間柄

橋本知事 昭和四十七年の日中国交正常化交渉を終えた田中首相と周恩来首相に対し、毛沢東首相が「もうけんかはやめましたか」と言ったと伝えられています。これが、日中両国の国交正常化交渉は、互いに利益をか

けて真剣かつ率直に意見を交換し合うことから始まりました。

このように、国と国とが真の友好関係を構築していくためには、相手に対してはっきり主張すべきところは主張し、本音で話し合える関係と考えるべきです。

様々な指摘がありました。が、その多くについては、議員と同じような考えを持っており、日本政府は毅然とした態度をとっていく必要があると考えるべきです。

本県では平成八年、上海市に事務所を開設し、経済関係などの交流を深めてきました。また、県青年の船事業を三年に一度実施し、船内研修と合わせ、若い世代に発展著しい中国をじかに見て、交流を深める機会

を提供することによって、彼らの成長を期待しています。今後の自治体レベルの日中交流に当たっては、従来の友好交流にとどまらず、経済交流を含め、より実質的な内容の濃いものにする

とともに、一方では県民レベルの草の根交流を一層積極的に進め、互いの理解を深めていくことが重要と考えるべきです。

両国の間では、国民レベルで見れば、相互理解はまだまだ不十分で、誤解も多いと感じますが、このよう

な交流を積み重ね、日本と中国が互いの立場を尊重しつつ、自由かつ率直な意見を言い合える仲になってこそ、国際社会での重要なパートナーとして、真の日中

間の友好交流が構築されると思います。

つくばエキスプレスの戦略的PR

小川議員 次に、本県の飛躍的発展の起爆剤となるつくばエキスプレスの戦略的PRについてです。TXは、八月二十四日の開業に向けて準備が順調に進められており、二月十六日には国土交通大臣に運賃認可申請が行われるなど、一気に県民のTX開業に対する期待が高まっています。しかし、一方であるかないかの大事業です。このプロジェクトの成否が沿線開発の成否に直結すると同時に、県勢発展の命運を分ける極めて重要な

かぎを握っています。従って、県民も事業の成功に向けて応援していくことが必要

と考えるべきです。私の地元守谷市でも、既に市民主体の開業記念イベント実行委員会が組織され、いろいろと検討を進めているところと聞きます。私もぜひTXの成功に向けて力を注いでいきたいと思います。

そこで、県や鉄道会社では、試乗会や開業イベントなどのPR活動にどう取り組むのか伺います。

具体的には、三月十九日に、首都圏の家族を対象に、つくばの研究機関を見学する秋葉原からのバスツアーを実施します。五月下旬には、開業機運を盛り上げる千人規模の百日前カウントダウンイベントを行うほか、開業日に合わせて、前夜祭や出発式などのイベントを実施したい。

歓迎企画県も支援

県民の試乗会実施など検討

また、この事業の整備推進については、多くの地元の方々の協力があることが前提です。TXの展開に加え、各種イベントなどをより積極的に展開

また、ご提案がございましたら、多くの県民にTXを応援していただけるよう、支援するため、県民がグループなどで企画して実施する歓迎の取り組みを、県も支援す

ることを、三月十九日

現在、実施方法について検討を進めていますが、できる限り多くの県民が試乗できるよう今後、鉄道会社と調整を行ってまいります。

二〇〇二年一月、県日中友好協会の招きにより講演された中国人

方々に鉄道を利用して

は、百年に一度あるかないかの大事業です。このプロジェクトの成否が沿線開発の成否に直結すると同時に、県勢発展の命運を分ける極めて重要な

かぎを握っています。従って、県民も事業の成功に向けて応援していくことが必要

と考えるべきです。私の地元守谷市でも、既に市民主体の開業記念イベント実行委員会が組織され、いろいろと検討を進めているところと聞きます。私もぜひTXの成功に向けて力を注いでいきたいと思います。

そこで、県や鉄道会社では、試乗会や開業イベントなどのPR活動にどう取り組むのか伺います。

具体的には、三月十九日に、首都圏の家族を対象に、つくばの研究機関を見学する秋葉原からのバスツアーを実施します。五月下旬には、開業機運を盛り上げる千人規模の百日前カウントダウンイベントを行うほか、開業日に合わせて、前夜祭や出発式などのイベントを実施したい。

奉仕体験の必修化

小川議員 次に、次代を担う子供たちのための教育です。まず、高校における奉仕活動の必修化についてです。

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう。」この言葉は、後藤新平が東京市長を退任後の大正十一年、ボーイスカウト日本連盟の初代総裁として青少年の育成に取り組んだ時に、自治三決として子供たちや指導者に説き、感銘を与えた言葉です。

心の教育が不可欠

「自治三決」都の推移見極め検討

彼は「自治こそは人間生活の根本であり、信頼と愛の奉仕こそは社会生活の源泉である」と、自治三決を教えました。この奉仕の精神は、八十年以上の時を経た今でもボーイスカウトたちの心に生き続け、活動の指針となっています。

今年度、東京都教育委員会は二〇〇七年度から、すべての都立高校で奉仕活動を必修科目にする方針を固めました。

奉仕活動を必修科目とする意味について、作家の曾野綾子氏は次のように述べています。

「一部の者は、奉仕を必修にするとは何事だ。したい者がすべきだ。あるいは、教育は決して強制してはいけないなど、またしても同じ議論が繰り返されるかもしれないが、日本の教育には今まで常識が欠けていて、それを社会がまた容認していたのです。私は訪れたことのある百十数カ国で、国旗、国歌に尊敬を払わない国家というものを見たことがありません。日本と比べようのないひどい体制の国家でも、その国旗と国歌に対する尊敬を表す教育は当然のこととされてきました。」

日本では、それをしないことが平和教育だという非

常識がまかり通ったので、教育の世界でもこのまま放置しては行かないというところで、罰則が考えられるようになったのです。人間が人間として身につけなければならないものの多くは、初めは強制によって与えられます。しかし、そのうちに人間は、個性で強制の部分など断じてはねのけるか、その分野を超えてその意味を深く探るようになるのです。

なぜ奉仕活動を義務づけてでも教えようとするのか。それは高校生たちを大人にするためです。人間は、他人との関係において、受けもすれば与えもするというのが健全な姿です。子供は一方的に庇護され、受ける立場をとり続けますが、少し大きくなると、家事を手伝ったり、重いものを持つ

たりして親や弱い者を守るようになります。それが成熟した一人前の人間の証拠です。この基本的な課程が長い間、教育の現場で放置されてきました。利己主義や過保護で働いたことが全くない青年は、何歳になっても、どんな学位を取って

なりました。奉仕活動を必修科目とする意味はまさにそこにあります。」

私も全く同感です。次代を担う青少年が、健やかに成長していくことは県民すべての願いであり、そのためには、青少年たちに命を尊重する心、他人への思いやりや社会性、倫理観や正義感など、生きる力を育む心の教育が不可欠です。今こそ、子供たち

に与えることの名譽、奉仕の喜びを教えなければなりません。高校における奉仕活動を必修科目にすることについて、所見を尋ねます。

川俣教育長 青少年の健全育成については、奉仕体験活動に取り組みすることで、他人を思いやる心や規範意識、社会性、倫理観などの豊かな心の育成を図り、いわゆる生きる力を育むことが大変重要であることはこの指摘のとおりです。

東京都では、奉仕体験活動を通して規範意識や公共心を育成し、自分の進路や生き方を考えさせることを狙いに、平成十七年度から二年間、研究指定校で実践研究を行い、十九年度からすべての都立高校で奉仕体験活動を必修化すると聞いています。

本県では、十四年の茨城総体で、すべての高校生が環境美化活動や大会運営補助役員として取り組んだ一人一役活動を継続、発展させて、十五年度からすべての学校が特別活動の時間等

議員挙 本県初の議員提案

小川の快 政策条例 改正巡り 違法広告物一掃狙い

「違法広告物の罰則強化」政策条例、初の提案」などの見出しで三月十八日付の新聞各紙に大きく報道された県屋外広告物条例の一部を改正する条例案は、第一回定例県議会最終日の三月十八日に議員提案され、賛成多数で可決、成立しました。

これがこれほど注目を集めたのは、罰金額が限度額の百万円以下まで引き上げられたこともさることながら、

「違法広告物の罰則強化」の議員提案が本県議会では初めてだったからです。中心的な役割を果たしたのが小川一成議員で、提案理由の説明では「良好な景観が一日も早く形成されるよう取り組むべきである」となどと訴えました。

小川議員によると、道路沿いなどに氾らんする違法広告物を追放しようとする改正は以前から温めていたもので、罰則強化など県の



新設された「南守谷交番」。二十四時間体制が整う

待望の交番新設 市民の熱い要望を実現

守谷市の南守谷地区に今春、市民待望の交番が一目見えました。交番はふれあい道路の「けやき台公園入り口」交差点角に設置され、市民の安全・安心の確保に貢献しています。

この交番新設は、小川県議が会田守谷市長ら関係者らと平成十四年六月、橋本知事と当時の永井県警本部長にそれぞれ市民約二万人の署名簿を添えて要望したのが始まりです。小川県議はそれ以降、委員会の審議や自民党県連政調会の活動などを通じて、実現を働きかけてきました。

しかし、近年の警察行政では、交番や駐在所は整理統合の方向にあり、交番の

新設は極めて異例です。要望から実現までに時間を要したのはそのためですが、市民の熱い要望と小川県議の熱意が当局側を動かしたと言えるでしょう。

今回の新設で、守谷市には交番がTX守谷駅前、北守谷地区と合わせて三カ所となり、警察官も従来の十六人態勢から二十四人態勢となるなど、充実・強化が図られました。

特に、守谷市を含む県南地域は、犯罪や交通事故の多発地帯とあって、つくばエクスプレスの開業を機に市民の間に高まってきた安全・安心なまちづくりへの機運醸成に、弾みがつくものと期待されています。